

## 第5回ふるさとパンフレット大賞 選考委員のコメント

### 【総評】

#### ◎南 伸坊 委員長

「ふるさとパンフレット大賞」五年目に入りました。粗選りの一次選考には、現役の学生さんが熱心に選んでくれました。(デザインや観光を研究されている学生さん、外国人の方もいます) 一次、二次の選考で絞られたものが、我々審査員のところに送られてきて、目を通し予め候補作を決めて選考日に集まりますが、二次でふるい落とされたものも復活して、最終選考いたします。今回も全体のレベルは素晴らしいのですが、とびぬけてびっくりさせてくれるような「発明」が見られなかったのは残念でした。審査員は、みんなビックリ好きです。来年もふるってご応募ください。

#### ◎楓 千里 委員

この賞も5回目を迎え、全体にレベルが上がっていると実感します。特に、地域のみなさんの素顔を上手に掲載しているパンフレットには自然と手が伸びます。地域の方参加型がトレンドになってきているのでしょうか。しかし、今回大賞となった京都府和束町の「和束のいとなみ」はそのトレンドとは一線を画し、あくまでも特産の「宇治茶」「茶畑」をメインに、「宇治茶とともに八百年 茶源郷 和束」を落ち着いたデザインとコピーで格調高く作り上げています。ここならば美味しいお茶が生まれるはず、と自然に納得させる力があり、ぐいぐい引き込まれました。英文の配置が洗練されているのも、ポイントです。

#### ◎パッケン 委員

今回の審査は大変困りました。いい意味で。数年前に比べて、言葉遣いも写真もデザインもアイデアも、どの要素をとっても、優れているパンフレットばかりで、全国のパンフレットの水準が上がっていることにとても感動しました。

#### ◎マッケン 委員

町の観光スポットや特産品を細かく紹介するもの、焦点を一つに絞って「町の推し」を紹介するもの絵や写真だけで町の魅力を伝えようとするもの、QRコードやサイトと連動させているものなど、どのパンフレットもアイデアが満ち溢れていて選考に悩みましたが、そこを楽しみながら今年も参加させていただきました。

## 【各賞について】

### ◎優秀賞 富山県氷見市「魚々のまち、ひみ。」

氷見市のパンフレットは、氷がプリントされたクリアファイルにブリ型のパンフレットを収めたユニークなものである。思わず手にとってしまうこのデザインは、特産品の寒ブリや漁師町である氷見のイメージをストレートに伝えており、企画力の賜物である。

### ◎優秀賞 神奈川県開成町「かいせいびより」

開成町のパンフレットは、シンプルな構成ながらも、まちなかのワンシーンを切り取った美しい写真の数々からまちの良い雰囲気が伝わってくる。ところどころに登場するゆるキャラも浮いた感じがせず、まちに溶け込んでいて素敵である。

### ◎南仲坊賞 熊本県熊本市「悠久 OLD IS GOLD」

熊本市のパンフレットは、前年度に引き続きたいへんクオリティが高かった。無駄を省き、焦点を絞って、コンセプトもハッキリしている。しかし、他の審査員にはあまり人気がありませんでした。タレントさんの人気に頼っている感じが不評のようでした。私はとてもいいパンフレットだと思いましたが、日本人の誰もが知っている「地震」がまるで、なかったかのようなところ、ところどころに意味不明の空白ページのあるところは不満でした。

### ◎楓千里賞 東京都青ヶ島村「世界が憧れる島」

東京都青ヶ島村のパンフレットは、とにかく表紙に度肝が抜かれます。「絶海の孤島が東京に?」「東京都青ヶ島村無番地の無番地って何?」「1/13 とは?」と表紙を見た途端に疑問が浮かび、つい見入ってしまいます。東京の島の中でも特に訪れにくい青ヶ島ですが、一度は行ってみたいと思わせる仕掛けに成功していると言えるでしょう。表紙を開いた中面見開きの写真のクオリティーが上がると、さらに完成度が上がったと思います。

### ◎パクン賞 熊本県和水町「あなた×和水町」

観光パンフレットというと、地元の名所、名産品、たまには有名人などを紹介するものが多いが、和水町はそういった手法を使いませんでした。住民の皆さんが日常生活で目にするような素朴なワンシーンを集めて、本物の暮らしを見せることに徹底しました。僕はこんなシンプルな日本が大好き。このパンフレットを見たからには、移住するなら和水町を考えますね。

◎マックン賞 長野県青木村「信州あおきむら」

写真を使わず 風景からお土産品まで全てをイラスト（絵）で紹介するというアイデアが面白いと思いました。青木村に行って絵と場所を照らし合わせてみたいです。また、「絵画集の作品として大事に本棚に取っておきたい」そんなパンフレットですね。

◎地域活性化センター賞 福島県「来て(春夏版)」

地域活性化センター賞の「福島県観光ガイドブック 2017 春・夏版」は、表紙の「来て」という直截なコピーと星空を背景とした水辺の桜の美しい写真に惹かれて思わず手に取った。ページをめくると歴史・景観・食・イベントなどの情報が盛り沢山で、視覚に訴える表紙と実用的な内容の組合せの妙により、本棚に置いておきたいものとなっている。